

山村尚

今回の官製談合事件で市民の行政への信頼が大きく揺らぎました。

この緊急質問に関して、まずは私の一般質問の冒頭で触れた市民から届いた手紙の内容についてご紹介いたします。以降手紙の内容です。

「龍ヶ崎市副市長と元社会福祉協議会副会長兼理事が逮捕され、市民の資産と誇りが毀損されました。もしかしたら今まで明るみに出なただけで、これまでも同様のことが繰り返されていた可能性も低くはないと思います。今回初めて行われたことがたまたますぐに発覚したとは考え難いからです。これまで繰り返し、ある意味では慎重に行われてきたことに慣れてきた中で、隙ができたために発覚したと考えるほうが自然であるような気さえします。これまで職員による不祥事が一体何回あったのでしょうか。記憶している限りでも4回はありました。そのたびに起きてはならないことが起きてしまったとコメントされ、市職員と一丸となって信頼回復に努めると決意を述べられていましたが、信頼回復は難しいのではないのでしょうか。その理由は幾つかあります。

一つ目、市長自身について。今回の件で市長は寝耳に水だったと話されていたが、後に副市長が事情聴取を受けたことを市長に話していたということが分かったようです。そうであるならば、市長は平気な顔をされてうそをつくことができる人なんだと思わざるを得ません。

二つ目、市長と容疑者、2人の関係について。副市長は市長が任命された片腕といってもおかしくないナンバーツーの人であり、容疑者である理事も市長と関係の深い何かと頼りにされていた人だと聞いています。市長はこの理事のかいらいという方さえいました。こんな体制の中で、信頼回復はおろか真相解明に近づくことさえ難しいと思います。今回の事件は本当に残念ですし、龍ヶ崎市の将来を憂慮している者の率直な意見とお取りいただけますと幸いです。」

このような内容がつづられていました。

この手紙にあるように、中山市政になってから複数回の不祥事があったことを当時、民間企業に在籍していた私も記憶があります。

今回の事件を一般の民間企業に例えると市役所が親会社、社会福祉協議会が関連子会社、市民が顧客であり、親会社、子会社の役員が法に抵触することを行い、嫌疑がかかったということになります。顧客と親会社には何十年にもわたる信頼関係に基づいた取引があり、そこに親会社、子会社役員による不祥事発覚、顧客はどう考えるでしょう。これら会社との取引の継続を再検討し、取引関係が消滅する、そして新たな会社との取引が行われる、さらには新規取引を検討していた市外の顧客はその検討をやめる、このようなケースとなり得ます。

すなわち市民が龍ヶ崎市内から転出してしまふ、龍ヶ崎市内への転入を考えていたが取りやめ、近隣市町村に移り住む、このような展開すら考えられます。これらを背景に、親会社、関連子会社の社長に相当する中山市長に質問します。

市民からの手紙にもあるように、中山市政になってから今回で5度目、把握していないものもあるとすればそれ以上となる、市民への謝罪についてどのようにお考えかお答えください。

中山一生市長

私が市長になってから、この議会の皆様にもおわびを申し上げるような不祥事が続いた時期がございました。そのたびごとに、やはりこの龍ヶ崎市の透明性を確保するために、つまびらかに調査をした上で内容を明らかにして、その上で再発防止を図っていくというプロセスはこれまでもしてきたところでもございます。

本当に5度目というお話でしたが、自分自身でも思い出すと頭が混乱するぐらいの時期があったことを思い出したところでもございます。そんな中で、皆さんもちょっと感じられていたんではないかと思いますが、そのせいかなのかどうかという検証はまた別になるかとは思いますが、最近職員の不祥事があまり皆さんの耳に入らなくなってきたのではなかったでしょうか。そんな中で起こった今回の事件でもございます。

先ほどのお手紙にもあったように、もしこれが龍ヶ崎市の、龍ヶ崎市政のと言ったほうがいいんでしょうか、龍ヶ崎市政のというの何か言葉が重くなってしまうかもしれませんが、そういう古い因習のようなものであれば、今まさにこれを改善、改革していかなければならない、そういう時を迎えているかと思えます。

先ほど来5度目という話もございましたが、これまでのように透明性を高めるために事実をつまびらかにした中で、市民にもお知らせをしていくことが大切であろうかと思えます。これに関しましては、先ほど来申し上げておりますが、捜査の進捗もありますので順次という形にはなってしまうかもしれませんが、それらの経緯を市民の皆さんには報告をしていかなければならないと思っております。

そして、市民の怒りはいかばかりか、そしてまた不快な思いをさせ、心配をかけ、不安な思いをさせていることがいかばかりか考えると、本当に市長としての責任を改めて深く感じないではいられないわけでもございます。

そしてまた、先ほども申し上げましたが、市役所の職員も市役所内で捜査が続いている状況、そしてまた一部の職員が今でも事情聴取が続いているということ、大変覆い隠すことができないぐらいの動揺をしていると思いますが、仕事の上ではそれを出さずに市民に安心感を伝える市政執行、市民サービスを徹底していただいていることに本当に心から頭が下がる思いでもございますが、やはりその動揺はいかばかりかと考えないではいられません。

そのような中で、もちろん説明責任、これはしっかりと果たしていく中で、透明性を、これだけ龍ヶ崎市の透明性を保障しているんだということをやっぱり見せていかなければならないと思いますし、その上で今後さらにその透明性を高めるための再発防止策をこれを徹底していくこと、今後市民の皆さんにこのような思いを、そしてまた市役所の職員も

このようなつらい思いをさせないためにも、この信頼回復のための再発防止策を徹底していくことが説明責任も果たしていくことにもなると私は考えております。

これについては、市政運営の二代表制の一翼であります議会の皆さんの後押しもなければなりませんし、ご理解とご協力をいただきながら、もう二度とこのようなことが起こらないような再発防止策の徹底をしてまいりたいと考えているところでございます。

山村尚

説明責任、再発防止策ということについて今触れられたと思います。再発防止策については、これまでの議員からのお話でもありました。

説明責任ということになるんですけれども、先ほど市民からの疑念の声が私のところに届きまして、市民の声として、なぜ今回の事件に関して警視庁が捜査を行っているのか、龍ヶ崎では一体何が起きているのか、マスメディアでの報道内容以外に何か事件性のあることが起きているのかとの質問を多く受けました。不安や市政への疑念を抱いている市民の多いことが分かります。この払拭に向けて市民への説明責任、ぜひ入れていただきたいと思います。疑念を持っているところに対しての説明が必ず必要と感じています。そこをよろしくお願いいたします。

捜査中で、起訴不起訴、有罪無罪が現時点で明らかになっていない中で、仮に両容疑者いずれかでも起訴または有罪確定となった場合、公の場で市民への説明が必要と感じています。民間企業に置き換えてみた場合のお話をしましたが、民間企業でさえ不祥事を起こした際というのは、その背景であったり経緯、原因などの説明責任を果たしています。当市においても、しかるべき時期にしかるべき形で納得のできる説明を市民に行っていただきたいと思います。

最後に、市民への信頼回復について。信頼回復について、今新聞報道の中で具体的なことが何点か指摘されています。先ほど来、大野議員からお話がありました理事による市幹部人事への差配、これは先ほど言っていなかったんですけれども、とあったり、理事が市政の影のフィクサーと評されていること、市長と理事との関係などについて、これは誤りなのか真実なのか今後究明されると思いますけれども、市民に丁寧な説明をすることが必要だと感じます。これについてのちょっと見解をいただきたいと思います。

中山一生市長

今、山村議員がご指摘されたように、様々な憶測、うわさが飛び交っていることは私の耳にも入ってきておりますし、今も聞かされたところでもございます。これらについては、やはり真相を究明し、その事実関係をしっかりとその事実をつまびらかにする中で、説明責任を果たしていかなければならないというふうに考えているところでもございます。先ほども申し上げましたが、捜査の進捗を見ながらのこの市民への説明になるかとも思います。また、先ほどありましたように、事件の内容が明らかになった際には、市民の皆さま

んに説明をすることが求められているというふうに考えているところでもございます。
そして、信頼回復ということでございますが、今言われたようなそれらを払拭するような
やはり信頼回復をしていかなければならないというふうに思っております。先ほど申し上げ
ましたが、まずは龍ヶ崎市が透明である、そして今後さらに透明になって、透明度を増
していくことを市民の皆さんに納得していただかなければならないわけでもございますの
で、この再発防止策、この徹底が一番説明責任を果たすことの一つになるとも思っており
ます。

議会の皆さんはもちろんですが、市民の皆さんが納得するような再発防止策を徹底して
いくことで、信頼の回復をしていかなければならないと考えているところでございます。

山村 尚

やはり信頼回復をする一番の根幹となるのは事実を説明することです。新聞報道にもい
ろいろありますが、誤りが一体何で真実が何なのか、市民へ丁寧に説明することが重要と
思います。偽りのない情報を市民に公開し、信頼回復の一步となるよう努めていただきた
いと思います。

また、中長期的に見て、どのような信頼回復の施策を打っていくのかということも考えて
進んでいっていただきたいと思います。